

情勢報告

次年度もがんばって作りましょう！～中芸ナス部会特別栽培の取り組み



栽培方法について復習

中芸集出荷場園芸研究会ナス部会では、特別栽培農産物に取り組んでいる生産者の勉強会を6月15日から7月12日にかけて3回開催し、新規7人を含むのべ49人が参加した。

中芸集出荷場から24園芸年度の取引市場との単価推移等の情報交換、振興センターからは肥料、農薬の使用方法や25園芸年度の取り組みで改めて注意すべき点について講義を行った。またホームページで生産履歴の公開状況を紹介した。生産者からは活発に意見が飛び交い、次年度も意欲的に取り組むことを確認しあった。

今後も振興センター、集出荷場、J Aは協力して、特別栽培の栽培技術等の情報をわかりやすく提供していく。

羽根・吉良川ナス生産者、新品種や新病害虫について学ぶ



真剣に聞き入る生産者

6月26日にJ A土佐あき羽根集出荷場で20戸、7月18日に同吉良川支所会議室で8戸のナス生産者による24園芸年度の反省会が開催された。

振興センターからナス新品種の試験成績、野外土着天敵の発生状況、家畜ふんたい肥の利用事例の紹介、土壌消毒の注意事項、安芸管内で発生した新病害虫について講習を行った。内容が多く1時間以上を要したが、生産者の関心は高く、みな真剣に聞き入っていた。

振興センターでは25園芸年度についても引き続き品種試験や病害虫調査を行い、生産者に情報提供する。

第6回安芸・室戸地区農村女性リーダー「つどい」開催



「つどい」風景

6月27日、田野町ふれあいセンターで安芸・室戸地区農村女性リーダー協議会主催による「つどい」が開催された。地元住民との連携を通じた地域活動の活性化を目的に、田野町長を始め58人が参加し、地場の農産物（ナス、ピーマン等）の料理の試食会、県地域農業推進課による「6次産業化について」、「十和おかみさん市」社長による「おかみさん市」の活動内容について講演を聴いた。また、今年2月に高知市で同女性リーダーが指導した一般消費者への料理講習会について代表3人が報告した。参加者からは「消費者へのPR活動は絶対必要」との声が聞かれた。

振興センターでは、「つどい」の運営方法や報告資料の作成について助言指導を行った。今後も、女性リーダーの活動支援や情報提供を行っていく。

小夏のジュニア博士が新たに 10 人誕生！



小夏ゼリーづくり

6月29日、井ノ口小学校において、小夏の出前授業が開催され、3年生10名とその保護者が参加し、この時期の旬である高知県特産の小夏について勉強した。

クイズ形式で小夏の特徴の説明や講義後は学校の先生による「小夏ゼリー」の親子料理教室が開かれるなど、終始和やかな雰囲気の出前授業となった。授業後には、各生徒にジュニア博士認定証を手渡し、新たに10人の小夏ジュニア博士が誕生した。

この出前授業は3年継続しており、学校と振興センターの役割分担や連携がスムーズにできた。今後も他品目の授業を実施して、高知産農産物の「小さなファン」を増やしていく。

24 園芸年度園芸研究会活動の締めくくり



多くの生産者が集まった
発表会

7月6日、約90人の生産者や関係者が集まり、JA土佐あき本所においてJA土佐あき園芸研究会主催による『試験展示圃成績発表会および講演会』が開催された。

『成績発表会』では、ナスの系統、IPM技術等全26課題から生産者が4課題、普及指導員・営農指導員が4課題を発表し、活発な意見交換が行われた。

振興センターからは、『農業経営』や『家畜ふん堆肥利用』についての講習、また、農業資材メーカーによる『植物生理から見た施設野菜の多収技術』の講演が行われた。

今後も、振興センターでは、環境制御等による増収事例などの情報収集を行い、逐次、生産者に情報提供していく。

ヒメヒゴタイ（露地花き）の生産者交流会を実施 ～芸西村へ視察～



圃場を見ながら意見交換

7月13日、室戸市佐喜浜地区の生産者3名が参加し、先進地の芸西村で視察研修を行った。

現地では道家地区の3圃場を視察し、各圃場で栽培管理や病虫害防除の方法、鳥獣害対策の状況などについて意見交換を行い、生産者同士の交流を図った。また、振興センターから、室戸市佐喜浜地区での生育状況を写真などで示し、情報交換の素材提供とした。

参加した生産者からは、「栽培経験の長い方に、栽培の話が聞けて良かった」「また、収穫前に見に来たい」という声が聞かれた。

振興センターでは、今後もJAと協力し、ヒメヒゴタイの安定生産に向けて現地指導を行うとともに、今回のような産地間交流を継続する。